

入試分析 国語

・出題順や点数配点は22年度と変わりなし。

問一 漢字の読み書き・俳句の鑑賞 配点20点 標準

- ・(イ)の「頒布」(はんぷ)の読みがやや難しい。
- ・(ウ)の俳句は、消去法を使って2か3を残し、よりよい解答を吟味する必要があった。

問二 物語文 配点24点 標準

- ・(ア)は傍線部の直前にヒントがある。(エ)は傍線部を言い換えて説明したものを選ぶ。
- ・(オ)は2か4でやや悩むが4の「圧倒され」が本文から読み取れない。ここでも消去法で答えを絞り込む解き方が有効である。
- ・昨年に続けて古い時代設定ではなく、「分からないから面白い」というメッセージ性の強い文章だった。

問三 論説文 配点30点 文章がやや難しい

- ・文法問題は、助動詞「う・よう」の出題。これで助動詞3回、助詞6回、副詞1回の出題。
- ・新傾向 (イ)では似た四字熟語を選ぶ問題ではなく、二字熟語で同じ構成を選ぶ問題に変わった。
- ・(ア)では、接続詞とともに副詞の「むしろ」が出題された。
- ・文章は「常識」に関するものでやや抽象的な部分もあるが、問題を解く際のヒントは傍線部の直前や直後にあって見つけやすい。(カ)(ク)(ケ)を消去法で正解できるかどうかで得点に差が出る。

問四 古文 配点16点 標準

- ・「平家物語」からの出題だが、内容自体は平氏や源氏とは関連がない。
- ・文法知識として「たまふ」の応用である「せたまふ」、疑問詞の「いかに」、基本単語の「あさまし」、疑問の「や」が必要だった。初見の古文を読み解くために文法知識が最低限必要な傾向は変わらない。
- ・(ウ)が1か3でやや悩むが、動作主や内容を追いややすい平易な文である。

問五 資料の読み取りと記述 配点10点 標準

- ・(ア)は昨年の内容理解から、グラフの数値読み取り形式に戻った。計算も必要なく簡単である。
- ・(イ)の記述は、昨年より5字増えて25字~35字となった。記述の際に「林野と関わりながら暮らす人が少ない」という文を「林野と関わりながら暮らす人を増やす」と逆に言い換えることが必要だった。

入試に向けての学習のポイント・アドバイス

- ①読解力をつける＝知らない語句の意味を調べて覚える。古文の基本単語と文法を覚える。
- ②物語文は登場人物と感情を追う＝主語は誰か。感情が分かる語句をチェックする。
- ③解き方を身に付ける＝対比・言い換え・筆者の主張を追う。選択肢は本文と見比べて考える。